

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人 アフリカ地域開発市民の会(CanDo) 会報 2010年7月 [第51号]



CanDo の活動の方向性 ナイロビ事務所の強盗事件・国民投票への対応 永岡 宏昌
ナイロビ便り 8月4日、新憲法制定の賛否を問う国民投票実施 永岡 宏昌
活動分野と地域ごとに見る 2010年度プロジェクトとケニア人スタッフ

CanDo での活動を振り返って 2000年からナイロビで2年、東京で6年半 山脇 克子
3月20日 2010年度年次総会を開催

インターンを終えて 小野 珠代 / 丸山 吏乃
新スタッフの自己紹介 玉手 幸一

5月15日 事務所を移転しました

写真は、土壌保全のために等高線(水平)に溝を掘る際、測量に使う簡易なAフレーム

ナイロビ事務所の強盗事件・国民投票への対応

代表理事 永岡 宏昌

5月30日、日曜日の夕方、当会ナイロビ事務所(兼、宿舎)が、銃を持った強盗に襲われました。居合わせた4人の日本人スタッフ・インターンに危害はなかったものの、浴室に閉じ込められ、現金ならびにコンピュータなどが奪われました。

強盗の発言は、当会のムインギでの活動・行動を見知っている者であることが示唆されるものでした。利用することがあるレンタカー会社の運転手が強盗の車に同乗していた、との門番の証言から、運転手が逮捕されました。しかしその後、門番の行方がわからなくなりました。他に証言者もあられなく、「見知っている者」に関する情報も入らないため、事件の真相はまだ分かりません。5月になってから、ムインギ町では、当会スタッフが被害にあった窃盗を含め、複数の強盗事件が発生。そのため安全対策としてムインギ町での宿泊を避けていたのですが、残念なことにナイロビ事務所が被害にあいました。

事件後の対応として、そのときは不在だったスタッフとともに全員への臨床心理士によるカウンセリングを、日本からの電話で行ないました。また、治安対策向上のための緊急出張として、6月4日から26日まで明城徹也理事をケニアに派遣しました。その最中、ナ

イロビ便り(p.2 参照)での報告のように、国民投票に関連して社会の状況が不安定になりました。連鎖し一般治安の悪化のリスクが高くなったと分析しました。リスクが現実のものとなった際に、急な避難を実施することによって事業が止まる事態を避ける対応を考えました。ケニア人スタッフ・専門家のみで、一定期間事業が継続できる体制を準備・形成して、日本人スタッフ・インターン全員がケニアから退出することを選択しました。そのため、6月29日から7月7日まで永岡がケニアに出張しました。

ムインギ町手前のグタニ町にケニア人スタッフ・専門家の15名全員と、日本人スタッフ・インターンが集合。7月から8月下旬までの事業実施の詳細スケジュールを作り、報告の取りまとめ方と電子メールによる通信方法、週ごとの車両スケジュールと人員配置の確定方法、給与・手当て・その他経費の決済方法などを決めました。

8月中旬、永岡を含むスタッフがケニアに戻って、事務所の再構築と、治安・安全体制の強化を図りながら、事業を継続していく予定です。この状況に対応することで、ケニア人スタッフ・専門家が、自らの事業運営能力をより向上させていくことを信じています。

ナイロビ便り

8月4日、新憲法制定の賛否を問う国民投票実施

永岡 宏昌

2010年8月4日に、ケニアの新憲法制定の賛否を問う国民投票が実施されます。ケニアの憲法は、多くの改正が繰り返されているとはいえ、独立前の1962年にイギリスで作られたもので、国民による新たな憲法の制定が長らく望まれてきました。

2005年にも、新憲法制定の国民投票が行なわれました。この時は、国民代表が議論を積み重ねた新憲法案が、司法長官によってキバキ大統領(2002年就任)に有利なものに変えられたため、オディンガ氏(現首相)など有力政治家が反対。選挙管理委員会が反対シンボルに指定したオレンジにちなんで、反対派はオレンジ民主運動を形成して、活動を展開。国民投票での否決という結果になりました。

その勢いによってオディンガ氏の政権獲得にむけた政治活動が活発となり、両者が拮抗したことが、2007年末の大統領選挙後騒動につながります。2008年2月末、アナン元国連事務総長らの仲介で、両者が連立政権を組むことで和平に合意した際は、「国民合意と和解法」が憲法で言及されるために、憲法改正を行なうことも書かれています。

今回の国民投票では、キバキ大統領、オディンガ首相とともに、賛成運動を主導してい

ます。しかし、この新憲法案では、一定の要件のもと妊娠中絶と、イスラム民法廷の設置を認めていることについて、キリスト教会指導者が反対しています。国民の80%程度がキリスト教徒のため、新憲法が国民の承認をえることができるか、不透明な状態となっています。当会の事業地ムインギでも、いつもは現職の国会議員を支持する住民の多くも、今回はその新憲法へ賛成意見に沿わず、反対投票をするのではないかと、との見方もあります。そして、2つの意見の数が拮抗すれば、新憲法の賛否というより、2012年の大統領選挙に向けた勢いづくりにつながる心配もあります。

このような状況の中、6月13日に、ナイロビ市内の政治集会の中心地であるウフル公園で爆破事件が起こりました。キリスト教団体が開催していた新憲法反対集会で、手榴弾が爆発し、6名の死者と100名以上の負傷者がでる惨事となりました。今のところ、この事件の実行者・原因・動機を推定したり、特定したりする情報は聞き及んでいませんが、これまでになかった新たな形での暴力の発現といえます。

この国民投票が、宗教や民族対立の過激化を招かないことを心から願っています。

活動分野と地域ごとに見る 2010 年度プロジェクトとケニア人スタッフ

東部州ムインギ東県・ムインギ西(旧ミグワニ)県・ナイロビ市

	教育	保健・幼児育成	環境
専門家	ガブリエル・キエンゴ	エリザベス・グリ ジェイムス・キズク ジョナサン・ゾカ ベンジャミン・カムティ マーガレット・ムトゥンガ ミルカ・カワシア・ゾビ	オネスマス・ムトゥワ トーマス・ムシラ
ムインギ東県 ヌー郡	◇運営能力向上と 教室建設	◇小学校教員対象 エイズ教育研修 ◇エイズ教育 公開授業 ◇子ども発表会 ◇成長記録カード配布 ◇幼稚園教師対象 エイズ教育研修 ◇エイズを教える リーダー養成 ◇エイズ・母性保護 公開学習会	◇小学校での環境活 動・教育の促進 ◇気候変動適応のた めの環境・保健学 習会 ◇保健グループを対 象とした環境活動 のフォローアップ
ムイ郡			
グニ郡			
ムインギ西県 グタニ郡		◇エイズ・母性保護 公開学習会	

* 専門家は、ナイロビ在住。

■ ナイロビ市ムクル・スラム群の<教育-高校生への補習授業>は講師の自主運営に近い形。

	ムインギ事務所
調整員	カンダリ・ムロンジア ビクトリア・ムニリヤ
調整員助手 (常勤)	フランシス・ムワンジ
調整員助手 (非常勤)	エスタ・ドオ クレネス・ムティンダ ジャフェス・ムテミ パトリック・マサイ ピーター・カランバ

* ムイ郡とグニ郡に連絡事務所を置いています。常駐スタッフはいません。

■ ナイロビ事務所に勤務するケニア人調整員および助手はいません。

2010年7月20日現在

CanDo での活動を振り返って

2000 年からナイロビで 2 年、2003 年から東京で 6 年半

山脇 克子

インターンとしてケニアへ派遣された 2000 年 4 月から、この 3 月に事務局を退職するまで 10 年。調整員としてのナイロビ勤務を終えた 2002 年の後、1 年半のブランクはありますが、CanDo にどっぷり浸かっていたように思います。ケニアでの現在の動きが気がかりで、CanDo での活動を「過去のこと」として見るのはむずかしいのですが、この機会にご挨拶を申し上げたいと思います。

1998 年にスタートしてすぐ、CanDo を応援し、その後、参加することになった理由は、活動の方針が自分の考えていたアフリカの開発に近く、現場で活動を行なっていること。そして、同世代の若い人たち(当時は)が現場の中心となり、団体を立ち上げたことでした。永岡宏昌代表(ひと世代上)、國枝信宏事務局

長、中塚史行調整員、三つ巴の個性ぶつかり合う 2000 年の CanDo が、今でも強く心に残っています。ケニアから帰国後も、活動に関わり続けたい、現場の人たちを支えたい、との思いから、國枝さんから引き継いで、東京事務所勤務をすることになりました。

東京では、代表が 1 年の半分は出張して職員一人体制でしたが、会員、役員、ケニアのスタッフ・インターン、ボランティアのみなさまに支えられ、一人だと感じたことはありませんでした。心より感謝いたします。そして、6 年半、勤務ができたのは、支えてくれた家族のおかげだと思っています。これからもアフリカで暮らす人たちによって、より豊かな社会の実現に近づけたのか、どう近づけるのか、問い続けていきたいと思っています。

3 月 20 日、2009 年度年次総会を開催しました

3 月 20 日(土)に開いた 2010 年度年次総会は、一般会員 39 名が出席し(うち委任状出席は 29 名)、定足数の 23 名(総数 67 名の 3 分の 1 以上)を超えて成立。

若林昭吾さんが議長を務め、2009 年度活動報告案、会計報告案が承認され、役員改選では次の候補者が承認されました。

理事: 國枝美佳、佐久間典子、竹直樹、永岡宏昌、

中澤和男、藤目春子、明城徹也(以上再任)、野木美早子(新任、前準理事、元理事)
準理事: 中塚史行、矢澤宏之(以上再任)、山脇克子(新任、前理事)、景平義文(新任)
監事: 國枝信宏(再任)、加藤志保(新任、元監事)。理事の互選で、永岡代表理事が再任されました。

続いて 2010 年度活動報告案と予算案がされ、事務所の所在地を変更する定款変更案が承認されました。

インターンを終えて

「行動変容の促進」は一朝一夕では実現不可能

丸山 吏乃^{リノ}

2009年7月末から6か月間一限られたインターン派遣期間に、何でも見てやろうという思いは強かった。慣れないことでも積極的に関わっていくよう心がけてはみたものの、細かい作業を含む大量の仕事、現場で相次ぐトラブルには、終始悩まされた。

担当したのは、エイズ教育の教員研修と環境活動。朝も昼も夜も、休む暇もなくフル回転。でも期間中に活動の効果を心から実感できることはほとんどなかったように思う。「課題解決のための人々の意識改革」や「行

動変容の促進」。開発分野では常に当たり前のように出て来る言葉だが、現地の人々に深く根付いている習慣や考え方に変化をもたらすことは一朝一夕で実現可能なことではない。時間や資金を費やし働きかけても、住民が変わらないことを選択することもある。

地道な活動を通して見えてくる現実を決してやさしいものばかりではなかったけれど、現場には常にさまざまな可能性が潜んでいるということを教えてくれた。

インターンの1日 ~アフリカン・フェスタ 2010 展示パネルから

平野 香奈子

6:00 小さな町の小さな食堂でケニア人とともに朝食をとる。メニューは、マンダ



ジ(揚げパン)とチャイ(ミルクティー)

8:30 エイズ学習会のための事前会議をケニア人スタッフとともに行う。外にイスを持ち出し、木陰での会議。

11:00 滞在する町で手配したピックアップ(貨物用自動車)に乗り込み、エイズ学習会の会場へ。

12:30 会場付近の村の食堂で昼食をとる。メニューは、チャパティ、キャベツの煮込み、トマトのスープ。

14:00 ケニア人の専門家、助手が主体となり学習会を進める。日本人インターンの仕事は、全体の監督や記録取り。人が集まるまで3時間程待たされる事も……。

18:00 学習会終了後、町まで戻る。その日の学習会の出席状況、内容や改善点についての話し合い。

19:00 楽しみにしていた夕食。メニューは、チャパティ、スクマ(ホウレンソウを硬くしたような野菜)、ヤギの肉入りのトマトスープ。

21:00 水が少ないため、体は洗わず。トイレはぽっとな便所。



★目次と違っていることをお詫びします。編集部

新スタッフの自己紹介

事務局長代理 たまたま こういち
玉手 幸一



この2月、CanDo スタッフとして、40年勤めたIT業界から参加させていただきました。4月から本格的に山脇さんより東京事務局を引き継いで3か月、まだまだわからないことも多く、いろいろと前任者のお手を煩わせています。

定年後は別の世界で仕事してみたい、とスタッフに応募し、去年はボランティアとして事務所の仕事を手伝いました。永岡代表理事のポリシーのもと、ケニアで地に足のついた実践的で有意義な支援しておられると感じました。谷中⇄ナイロビという非常に面白いコントラストでの Skype ディスカッション

などに興奮したことも参加の一因です。

これからは理事、会員の方々、そして心強い景平さんやケニア人スタッフ、インターンの方々との良い連携をとりながら、東京スタッフとしてお役に立てるよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

最後に、パーソナルな紹介を。家内、1か月のうち数回しか口をきかない長男(仲が悪いわけではありません)と、唯一、笑顔(?)で接してくれる猫の4人(?)と同居。趣味は、オペラ鑑賞、山登り。目指していることは、Be deliberate in council, prompt in action (熟慮断行)です。

5月15日、東京の事務所を移転しました

谷中・三崎坂(やなかさんさきざか)上の長屋の2階に置いていた東京事務所を、5月15日に坂下のビルの2階に移転。6畳一間から「6畳+台所」と少し広くなりました。

同じ通りを2、3分下がるという距離なので、引っ越しの手段は台車。永岡さんをメインに、12日の作業日には元インターンの渡辺裕文さん、平野香奈子さんという助っ人が加わった人力です。大物のじゅうたんは、新事務所で8年分のほこりをクリーニング。築90年以上と比して、今の6畳が小さいことを確認。

長屋の大家さんに机やイスを譲っていただき、家具の購入費は見積もりの半額以下となりましたが、超えた項目もあって、使用した金額は36万1505円。40万円の寄付をいただいた残りの3万8495円は、今回の緊急募金にあてさせていただきます。

日暮里駅からは遠くなりましたが、地下鉄の場合は千駄木駅から3、4分と便利です。目印となる隣の谷中小学校は白壁の和風の造り、ビルの階段は駐車場を入ったところにあるので、いらっしゃる方はご注意ください。

事務局から

お礼

会報 50 号に同封した「移転カンパのお願い」(35万円)に対して、2010年7月15日までに、28名の方から40万円のご寄付をいただきました。心からお礼を申し上げます。

報告

◇支援

○4月13日、(独行)環境再生保全機構 地球環境基金の助成金交付が決定(ムインギ東県ムイ郡での「地球温暖化による気候変動に対応するための子どもと地域住民の環境意識と技能向上事業」。400万円。2008年、09年度に続く3年目)。
○サーバー提供に加えて(株)ネットフォレストによるインターネット接続が5月13日開始。
○6月14日、外務省 NGO インターン・プログラムの受け入れ団体に決定(6月から2011年3月まで10か月間)。

◇組織

○3月20日、2010年度第1回理事会、および2010年度年次総会を開催(p.7参照)

◇国内活動

○4月22日から6月24日までの木曜日の夜、「NGOからみたケニアの人々の生活と参加型開発協力」をテーマとして連続勉強会を開催(全10回)。参加者は81名(のべ227名)。
○6月12日・13日、アフリカン・フェスタ2010(横浜・赤レンガ倉庫)に出展。12日、永岡がトークショー出演。また、紹介を行ないました。

人の動き

○3月5日、丸山吏乃が7か月のインターンを終了してケニアから帰国
○3月15日、平野香奈子が6か月のインターンを終了して帰国
○3月15日、永岡がケニアから帰国
○3月31日、事務局長 山脇克子が退職
○4月1日、玉手幸一が事務局長代理に就任
○4月13日、理事 明城徹也がケニアに出張
○4月14日、島崎梓(しまさき あずさ)を6か月の予定でインターンとしてケニアへ派遣
○5月31日、明城がケニアから帰国
○6月1日から、佐久間典子が事務局員として東京事務所に勤務
○6月4日、明城がケニアに再び出張
○6月14日、井本佐保里(いもと さおり)がインターンとして東京事務所で研修を開始(左段の外務省 NGO インターン・プログラム参照)
○6月15日、越智信一郎が6か月のインターンを終了して帰国
○6月21日、島崎が帰国
○6月26日、明城が帰国
○6月29日、永岡がケニアに出張
○7月7日、永岡が帰国
○7月7日、インターン 伊東彩、千葉亜理紗、大谷佳代子が帰国
○7月12日、調整員 景平義文が一時帰国

■次号は、9月発行の予定です。

CanDo アフリカ 2010年7月 [第51号] 2010年7月22日発行

発行人: 永岡宏昌 編集人: 佐久間典子
発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室
電話/FAX: 03-3822-1041 電子メール: tokyo@cando.or.jp
ウェブサイト: <http://www.cando.or.jp/>
郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会